

2026(令和8)年度 第1回初任者 SD 研修 「輝く大学職員としての最初の一步！」開催報告

日 時: 2026(令和8)年6月19日(金) 14:00~16:20、情報交換会 16:20~17:00
会 場: 大阪・梅田 貸会議室ティーオージー大阪
(大阪市北区梅田1-1-3-1700 大阪駅前第3ビル17階)
講 師: 加藤 敦也 氏(研修部会推進委員会 委員、大阪産業大学 人事部 人事課 主任)
佐藤 浩輔 氏(研修部会推進委員会 委員、大阪体育大学 庶務部 学長室担当 チーフ)
受講者数 15 大学 49 名(うち会員外2大学2名)
内容詳細 大学コンソーシアム大阪 HP 掲載の「シラバス」参照
実施結果 同上掲載の「受講者アンケート」参照
企画・運営: 大学コンソーシアム大阪 研修部会推進委員会

実施内容

1. 開会挨拶(中村研修部会推進副委員長)

- ・開会前から受講者同士が自発的に挨拶を交わしている様子を拝見し、大変喜ばしく感じた。大学の枠を超えてネットワークを広げることは、大学職員にとって大変意義深いことである。
- ・本研修についても、情報共有や交流を意識しながら受講し、今後につながる関係性を築いていただきたい。



中村副委員長

2. 本研修のねらい・到達目標の確認(加藤講師)

<研修のねらい>

- ・本研修は、日々の業務を単なる「作業」として終わらせるのではなく、「なぜこの仕事を行うのか」という目的や意義を理解しながら取り組めるようになることを目的としている。また、大学職員に求められる役割について考えることを通じて、大学職員としての使命感や責任感を醸成することも目指している。
- ・グループワークでは他大学等の参加者の視点や実践事例に触れ、自分一人では気づきにくい考え方や工夫を共有することで、新たな学びや気づきを得るとともに、学びへのモチベーションを高めることも狙いの一つである。
- ・ぜひ積極的に意見交換や情報交換、交流を行い、多様な視点を取り入れながら、大学職員としてのプロフェッショナル意識を育んでいただきたい。

<到達目標>

1. 大学の役割や組織構造等を説明できる。
2. 大学職員に求められる役割を説明できる。
3. グループワークを通じて参加者と意見交換できる。



加藤講師

3. 研修本編(佐藤講師)

(1)アイスブレイク

(2)講義

- ・高等教育の現状と課題
(急激な少子化に伴う18歳人口の減少／認証評価制度の現状／大学規模の適正化／就業構造の変化等)
- ・大学の組織構造と意思決定
(国立・公立・私立大学のガバナンス体制／関係法令／大学の構成員と組織の特徴等)

(3)個人ワーク①「大学が果たす役割」

(4)講義

- ・大学職員の仕事と法的位置付け(事務組織の役割／組織文化・意識面等)

(5)個人ワーク②「大学職員に求められる役割」

(6)グループワーク

- 個人ワーク①・②の内容をグループ内で共有し、意見交換を行った。



グループワークの様子

(7)全体共有

- 各グループで共有した内容を発表し、全体で共有した。

(8)総括

- ・2025 年に取りまとめられた中央教育審議会答申「我が国の『知の総和』向上の未来像～高等教育システムの再構築～」では、大学・行政・産業界・地域社会が一体となって人材を育成する仕組みへ転換していくことの重要性が示されている。
- ・18 歳人口の減少は、大学だけでなく地域を支える人材の減少にもつながる一方、魅力ある大学の存在は地域への人材定着にも大きく寄与する。そのため、大学という枠を越え、多様な主体と連携・協働しながら、地域社会に求められる人材育成を担うという視点を持つことが重要である。
- ・大学を変えるためには、職員一人ひとりの主体的な行動が欠かせない。大学の持続的な発展のためにも、自ら企画・立案し、小さな一歩からでも行動を起こしてほしい。
- ・大学や部署の枠を越えたつながりを築き、互いに学び合いながら実践につなげていくことが期待される。



佐藤講師

4. 閉会挨拶(竹中研修部会推進委員長)

- ・本日は、一度では消化しきれないほど多くの情報や知識に触れていただいたと思う。ぜひ資料を見返しながら復習し、学びの資源として活用するとともに、自らの実践へとつなげていただきたい。
- ・研修中に考察した大学職員の役割については、理想と現実との間にギャップを感じる場面もあるかもしれない。しかし、その壁を乗り越えるためのヒントが、本日の研修には数多く盛り込まれていた。今後は、①外(法令や他大学等)を知る、②中(自大学・学内)を知る、③外と中との接点を知る、の三つの視点を意識しながら、引き続き自己研鑽に努めていただきたい。



竹中委員長

5. 情報交換会

研修終了後に、受講者と講師、研修部会推進委員による情報交換会を開催し、大学の枠を越えた交流とネットワーク形成を図った。

以上